



と合流してくる。F3二段七段。左岸よりをシュリングを使い、トラバースぎみに降りる。

沢がゴルジュ状になってきて、二・五段チョックストーン滝。シャワーぎみに降りられそうだったが、アツプザイレンにて降りる。しかし、続くF2(蓮華滝)が三〇段もあり、ここは降りられない。右岸のガレ場を、ザイルを使いながら、途中に何本か

立木等を使ってピレーをとり、二ピツチ半の登りにて、登山道に出る。時間も遅くなったので、今日はここで下降を中止して、登山道を下るこ

とにした。(記)

「タイム」 県境・下降点(一四〇〇)

↓蓮華滝(一六〇〇)↓籠堂(一

七二〇)↓田畑部落(一八〇五)

茂庭沢下流部

上
一九八二年八月八日

八時〇五分、遡行開始。今年は梅

雨明けが八月一日

と例年になく遅れた上、スカツとした

た青空が広がらない

い。今日も空模様

は何となく不安定

にわか雨くらいは

きそうである。

歩き始めてすぐ

五段程の滝が右岸



茂庭沢の遡行

に見える。もっともこれは支沢にか

かる滝ではなく、用水路からの過剰の水が流れ出て、滝になっているにすぎないようだ。

二〇分程進むと、一〇〇の滝。右岸の一筋のブッシュ帯を登り、岩棚をトラバースして、最後は一〇〇程の高さの所をエイヤツと飛び降りる。

この上は、一〇〇個程の小滝が連なるゴルジュ帯だ。丸い釜とスタンスの少ないよくみがかれた岩盤が続い

ている。滝にもう少し高度があれば、通過は困難な所であるが、おしいかな、滝の高さは一〜三〇程にすぎない。体をつっかい棒のようにして登ったり、斜面を駆けぬけたりして、結構楽しんで登った。

予想もなかったゴルジュ帯の出現に気をよくしたが、この先は完全に平凡。滝も何もなく、蓮華滝までわきめもふらず、ただひたすら登る

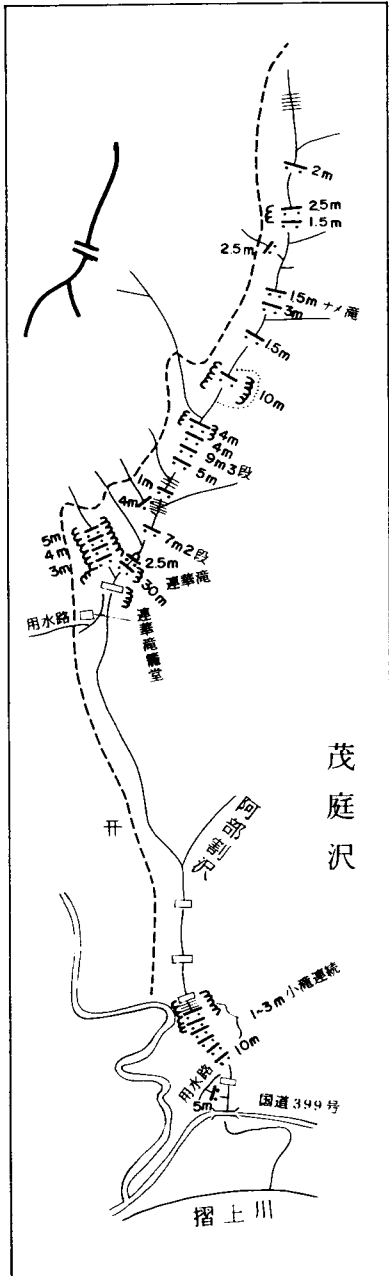
ほかなかった。

蓮華滝は、三〇〇程の落差をもつなかなか見事な滝である。そばに小さな祠が置かれ、霊場としての雰囲気も充分。近くには、立派な龍堂もある。

今日はここで遊行を打ち切って、下山にかかる。(記・一)

「タイム」 出合(八〇〇五) ↓ 蓮華滝

(一〇〇五五)



茂庭沢